

# 宝泉寺報

編集発行

〒948-0103

新潟県十日町市小泉

**水澤山宝泉寺**

電話(025)752-2924

印刷/旬みらい印刷

## 岳典宝泉寺副住職を拝命

弟子の岳典は、昨年の十月二十九日に大本山永平寺に瑞世師として拝登し、今年の三月十三日大本山総持寺に瑞世師として拝登しました。  
瑞世(すいせい)とは、転衣、更衣ともいい、立身、結制とともに曹洞宗の僧侶三大出世のひとつとされています。



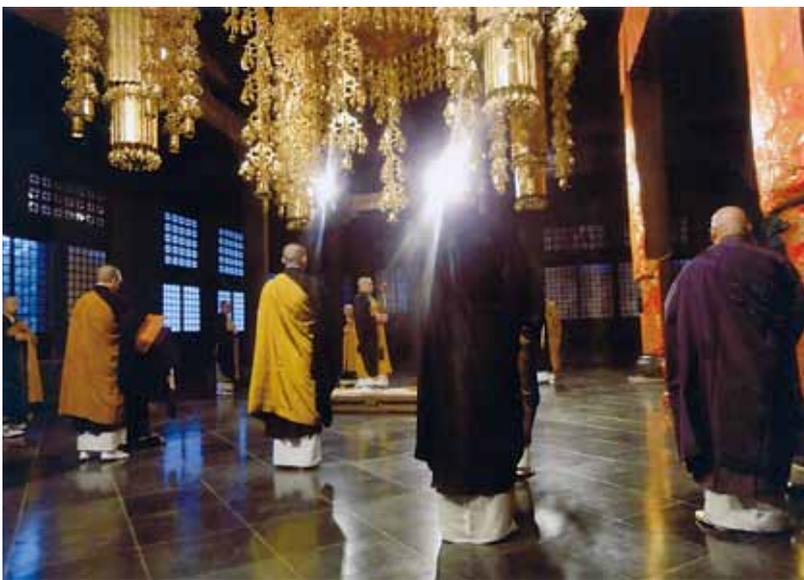
総持寺太祖堂（千畳敷）で中央に立つ岳典

僧侶分限の五階級Ⅱ程度、立身、伝法、転衣、結制のうち、伝法以上の資格を持つ者が永平寺、総持寺の出世道場にて住持の式を挙げ、色衣Ⅱ色袈裟を被着する事を許されるものであり、転衣した僧侶は以降、和尚と呼ばれます。

現在では、それが転じて両本山に拝登して住持の資格を得るための儀式をいいます。

一晩拝宿して住持職を勤めるので一夜住職と呼ばれます。

これによって岳典は、五月三十一日に副住職に任命されたのです。



総持寺仏殿で中央に立つ岳典

## 第六回 宝泉寺二千年蓮観蓮会のご案内

日時 平成二十五年七月二十一日(日)

午前五時より七時半まで

場所 十日町市小泉 宝泉寺

内容 ①二千年蓮の開花を観察、美しさを愛でる

②朝茶会(好日会・吉田小の児童)

③謡曲・仕舞(十日町観世会)

④豊栄舞(吉田中の生徒)

⑤尺八と琴の合奏(広田ご夫妻)

⑥象鼻杯(蓮の茎を通して日本酒や蜜水を味わう)

会費 一人七百円

宝泉寺二千年蓮を愛し育てる会代議員よりチケットをお求めください。電話でお申し込みの場合には事務局までご連絡ください。当日売りもございます。

事務局 関口和夫 ☎025・752・2778

## 今年のだんごまき



今年(正徳五年一七二五)作成の涅槃図を飾りました

ごらんください!<宝泉寺ホームページ>

「十日町市宝泉寺」と入力して検索すると宝泉寺が出ます。

宝泉寺の歴史  
本堂拝観  
十六善神  
二千年蓮  
本葬儀  
晋山式  
2006年の豪雪  
2008年観蓮会  
墓地

第五回 宝泉寺観蓮会

(平成二十四年七月二十二日(日) 午前五時)



お手前は誰そ



正客は関口十日町市長



広田ご夫妻による琴と尺八の演奏



象鼻杯をいただく



吉田小の児童による茶席



吉田中の生徒による豊栄舞

# 宝泉寺住職を拜命して8年が過ぎました。



昨年 7 月の観蓮会 (再開 5 回目)



今年 2 月の除雪 (大型特殊免許と作業免許あり)

平成16年の5月、突然の賢英和尚の遷化を受けて千葉県我孫子中の学級担任と新潟県十日町市宝泉寺の住職の2つの責任がのしかかったのです。平成10年に母が脳梗塞を患い妻と3人の子供は、寺に帰っていました。つまり単身赴任の状態でした。

毎週寺に帰りました。柔道部の顧問もしていたので県大会等がある日に葬儀がぶつかるかと葬儀は近隣の寺方に頼みました。

そうこうしているうちに10月23日を迎えました。中越地震です。土曜日なので十日町のラポート4階でお齋中に被災しました。献杯をしたあと10分後に地響きと共に上下の大きな揺れが襲いました。料理はまだほとんど出ていなかったため、私の独断でもう地震は来ないからお齋を続けましょうと進言したのです。

料理が出揃ったその時再び地震が起こったのです。会場は悲鳴と皿が落ちる音に満ち溢れたのです。全員地階まで階段を駆け下りました。その時には、3分おきに震度3~4の揺れが絶え間なく感じられました。

やっと寺に帰って安心したと思った直後、最大の揺れが3度来たのです。見たら被害の大きさに愕然としました。その時教職を去って寺の復興にこれからの人生をかける決意をしました。

54歳の時のことです。

その後、中越沖地震、長野・北部地震、記録的豪雨と大災害が続きました。

しかし、檀信徒の皆様方の暖かい励ましと多額の寄付を受け宝泉寺は、さらに発展を遂げることができました。感謝の念に絶えません。ありがとうございます。



## 善神堂前の石垣工事

山谷 丸山政弘殿 20万円

小泉 林 博殿 15万円



## 本尊様前の上下の金箔押し

山谷 酒井うめ子殿 30万円



## 舞台格天井工事

武蔵野市 (松代海老) 石澤善磨殿 40万円

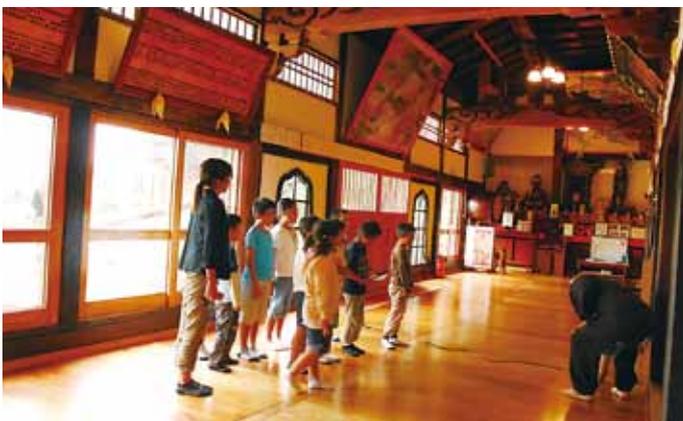
# 写真通信



昨年の7月5日 富山市大淵寺の団参旅行 45名



宝泉寺のホームページを見て雲洞庵の次に回ったとのこと



昨年10月1日 吉田小学校3年生の総合学習(吉田の自慢)



地獄、極楽の話聞く児童たち10名と先生



昨年の9月突風でモミの木が倒れる



今年の6月 寺から見た暁の八海山(中央)

## 總持寺の大本山 研修に参加して

関口 和夫

昨年六月二十五日から二泊三日で、横浜の總持寺の研修会に参加しました。総勢三十九人でした。二百四十畳の広い講堂で開講式があり、そのあと諸堂拝観です。それぞれの建物は離れていて地下道でつながっています。これは能登の總持寺が明治三十一年に大火で焼失したことの教訓を生かしたものです。夕食の後は座禅、九時就寝です。翌日は三時半に起きて講堂で朝の座禅、それから太祖堂で朝の勤行です。太祖堂の階段に並んで記念写真を撮りました。七時から朝食、八時から閉式で、一人ひとり修了証を頂きました。

總持寺職員にお別れの挨拶をした後、境内の参観ですが、メインは石原裕次郎のお墓でした。年中お花の絶えることはないそうです。南足柄市の最乗寺、箱根の林泉寺を見学した後、修善寺温泉泊でした。この夜は精進落としようということで大変盛り上がりました。忍野八海に寄ってからはひたすら帰路を急ぎ、六日町に着いたのが四時でした。